

## ・安中市合併 20 周年の検証について

## ・子ども、子育て支援について



清風クラブ  
まつもと つぎお  
松本 次男



詳しい内容は  
こちら

2006年（平成18年）3月18日、安中市と松井田町が合併し新安中市が誕生して来年3月18日で20周年となります。この間、社会経済状況は大きく変化し、少子高齢化や人口減少の進行など、自治体経営の厳しさはこれまでになく増大しています。そこで、安中市合併20周年を迎えようとしている今日、改めて政策的見地と住民目線の双方から合併を検証するとともに、今後のまちづくりについて聞きました。

本市では、子ども・子育て支援の更なる充実を図るため、「安中市子ども計画」の策定が進められています。新たに策定される計画について、策定体制や基本目標、施策展開の方向

性などについて質問しました。併せて、これまで課題や問題点の多さから事業実施に至らなかった施策がどう計画に反映されているのか。具体的な取り組みへ向けた考え方などについて聞きました。



合併20周年を控え建設が進む新庁舎

## ・福祉行政について ・道の駅整備について

## ・碓氷関所の整備について

介護報酬が低く抑えられているために、介護に従事する方が激減していて、各事業所ではヘルパーが退職しても補充ができず営業が厳しくなっています。ヘルパーの養成講習を市の責任で開くべきです。甘楽町では昨年度で、富岡市では今年度をもって「社協の訪問介護事業」が事業廃止するそうです。訪問介護事業の充実について聞きました。

道の駅計画は、市の最西端、国道と信越線に挟まれた狭く細長い土地、しかも進入路は「土砂災害警戒区域」など立地条件が悪すぎると、疑問を持つ市民が多く、全面的に見直すべきではないかと聞きました。川場村では、世田谷区との交流事業

から30年かけて、村と農家が協議を尽くして「(株)田園プラザ川場」を作ったそうです。ビール工房、パン工房、ミート工房など、農家と行政が検討し、3年かけてようやく「道の駅」に登録したと聞きます。市民の声に耳を貸し、事業の見直しをする勇気も持つべきと聞きました。

中山道碓氷峠越と共に碓氷関所が国史跡として指定されたことから、関所資料館を現在の東門の隣にある「関所会館」の場所に新設し、地元のために「住民センター」を適切な場所に設置すべきではないかと聞きました。



日本共産党安中市議団

かない ひさお  
金井 久男



詳しい内容は  
こちら